

看取りに関する啓発用冊子の作成について

1 目的

今後、リビング・ウイルを作成し、延命治療を望まないという方については、自宅での看取りとなることが多いものと考えられる。この場合には、本人への配慮は十分に必要であるが、それと同時に家族がそれを受け入れる精神的な準備をしておくことが不可欠であるため、看取りに関する啓発冊子を作成する。本冊子は、リビング・ウイルを作成する際の家族等との話し合いにおいても、有効な資料になるものと考えられる。

また、医療及び介護の関係者間において、看取りに関する情報共有を図るための媒体としての活用も期待できるものと考えられる。

2 実施事項

自宅で死を迎えるまでの身体的な変化及びその変化を家族がどのように受け止めることが望ましいかについて分かりやすく記載した冊子を作成する。

3 実施内容

- (1) 配布対象者
原則として市民

- (2) 冊子（案）
別案のとおり

看取りに関する講演会の実施について

1 目的

看取りへの市民の理解を深めるため、講演会を開催する。これまで在宅医療推進事業の市民啓発として、「エンディング・ノート」の上映で「人生の最期の生き方」を、長尾和宏氏の「平穏死10の条件」の講演では「尊厳をもった生き方」、今回は当事者の話を聴くことで、前2回の事業の集大成として「最期まで自分らしく生きること」を考える機会とする。

2 開催予定日時

平成28年2月7日（日） 開演 午後1時30分

3 会場

島田市民総合施設プラザおおるりホール

4 内容

「死ぬことと、生きることは同じ」

講師 ライフ・ターミナルネットワーク代表
一般社団法人日本医療コーディネーター協会顧問
金子 稚子 氏（流通ジャーナリスト故金子哲雄氏の妻）